

感染症対策で重要な役割を担う 富田林保健所に 現状などを聞きました

※このインタビューは5月1日に行われたものです。



富田林保健所長 永井仁美さん

—南河内の感染状況は？

府内では感染者が最も少ない地域です。集団感染となったライブハウスなどへの出入りや、ヨーロッパなどからの帰国者が比較的少なかったからだと思われます。

また、幸いにも院内感染や施設内感染が発生しておらず、病院や施設のみなさんが必死に頑張ってくれていること、心から感謝します。

—保健所にはどんな役割が？

現在、全国の保健所に新型コロナウイルス受診相談センターが置かれ、相談や検査対応、入院調整、検体や患者の搬送、濃厚接触者の健康観察などに当たっています。

当保健所では、感染症担当の5人を中心に府の他部署からも応援を受け、全職員50数人で総力を挙げて対応しています。

—相談対応は？

4月中旬は1日150件を超えて電話が鳴りっぱなしでしたが、5月1日現在では40数件になっています。相談内容は不安を訴えるも

—誰でも検査できますか？

医師の診察の結果、感染が疑われた場合に、PCR検査を行います。検査結果がすべて陰性だった日は、執務室内に拍手が起こることも。

—苦勞してらっしゃいますか？

南河内の医師会の積極的な協力のおかげで、5月から検査体制を強化しましたので、今は検査数を増やし安心を広げていきたいと考えています。

ワクチンもない状況で、患者と向き合う医療機関が大変苦勞されています。保健所は携帯電話を交代で持ち帰るなど24時間体制なので、深夜に救急隊から電話がかかること

—濃厚接触者への対応は？

観察期間中は外出を控えていただき、朝夕の体温と体調変化はないかななどを電話や専用アプリで確認しています。家族とも部屋を分けるなどして接触を避け、勤め先にも相談していただいで在宅勤務などをお願いしています。

—私たちにできることは？

陽性者とその家族は大変つらい思いをされています。保健所や厚生労働省が適切に接触者の把握を進めていますので、個人を特定しようとして聞いて回ったり、感染者を非難するような行為は慎んでください。

誰もが感染する可能性があるというのを忘れずに、配慮ある行動をお願いします。また、すれ違い程度では感染しません。街の空気が汚染されているわけではありませぬので、センチシヨナルな報道に踊らされないように。

過剰に恐れて自宅にこもってばかりにならず、散歩など、集団ではない一人でできる運動で生活リズムを整えてほしいと思います。

—インタビューを終えて

永井所長は最後に、「あとひと頑張り、予防策の継続をお願いします」と言って話を締めくくりました。

今回、最前線で戦う現場の声を聞き、不安はありますが、一人ひとりの冷静な行動が感染拡大を防ぐ鍵となることが分かりました。

